

立命館大学大学院先端総合学術研究科「出生をめぐる倫理研究会」第4回研究会

『生命』を問い直す—『生まれない方がよかった』という思想をめぐる—

【企画趣旨】

選択的中絶や尊厳死など生の輪郭が揺らぐなか、生命倫理という知／権力は「生命」の範囲を線引きしてきた。加藤秀一氏は、近著『〈個〉からはじめる生命論』において、障害者が自己の出生を否定するロングフル・ライフ訴訟等を題材に倫理的配慮の対象は誰かを見定め、抽象化された従来の生命論を超えて、「誰々が生きている」という人称性を伴った事実こそ生の真髄があると主張する。本研究会では、加藤氏をお招きし、これら意欲的な論考をいかに受け取り、どのように考えを進めるかディスカッションをおこなう。

【日時】 2008年9月27日(土) 14時から17時30分まで

【場所】 立命館大学衣笠キャンパス学而館2階 第1研究会室

【プログラム】

14:00	開会
14:05~14:10	挨拶および講師の紹介：松原洋子（先端総合学術研究科教授）
14:10~14:25	「この本で伝えたかったこと」：加藤秀一氏（明治学院大学社会学部教授）
14:30~14:45	『〈個〉からはじめる生命論』の概略紹介：野崎泰伸（生存学創成拠点PD）
14:50~16:40	指定質問とそれに対する加藤氏の応答
16:40~16:50	休憩
16:50~17:30	全体ディスカッション
17:30	閉会

【加藤秀一氏の紹介】

1963年東京生まれ。明治学院大学社会学部教授。専攻は社会学、性現象論。著書に、『性現象学——差異とセクシュアリティの社会学』（勁草書房）、『〈恋愛結婚とは何をもたらしたか——性道德と優生思想の百年間』（ちくま新書）、『ジェンダー入門——知らないと恥ずかしい』（朝日新聞社）、共編著に『ジェンダー』の危機を超える！——徹底討論バックラッシュ』（青弓社）、『図解雑学ジェンダー』（ナツメ社）などがある。

【主催】

立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点・院生プロジェクト「出生をめぐる倫理研究会」  
立命館大学生存学研究センター